

宮柁二記念館だより

2021.3.25

第54号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



短歌セミナー(令和3年1月17日)・橋 芳園講師

開館二十九周年目に向けて

令和元年度の魚沼市(小出)の日最大降雪量は三十八糎、最大積雪深は四十七糎、累積降雪量は二百二十七糎でした。魚沼市のお隣、十日町市の記録では、昭和の平均累計降雪量が千二百七十八糎、平成の平均累計降雪量が九百三十八糎ですから、昨年度がいかに小雪であったかがわかります。

しかし、その翌年、つまり、今冬は雪が降りました。十二月十四日から降り始めた雪は、三日間で百糎になりました。水分の多い重い雪であったために、市内・県内各所で木が倒れたり、枝が折れたりしました。記念館でも、正面玄関脇のヤマザクラの太い枝が折れ、三本ある松のうち道路脇の一本が根元から倒れるなど大きな被害がありました。二月末までの魚沼市(小出)の日最大降雪量は十二月十五日の五十糎、最大積雪深は二月十八日の二百五十糎、そして累積降雪量は八百三十六糎です。

さて、今年度、記念館では紙面で紹介した企画展「柁二 ふるさとの歌」展や第二十六回宮柁二記念館全国短歌大会以外にも様々な事業を行いました。小出高等学校・堀之内小学校での出前講座、新資料による宮芳平デッサン展、第二十五回宮柁二記念館全国短歌大会ジュニア部門特別賞展、第二十六回宮柁二記念館全国短歌大会色紙・短冊展などです。堀之内小学校の三年生は、全員で記念館見学に来てくれました。そして、第一展示室には、五月にお亡くなりになった山本清氏を偲ぶコーナーを設置し、あらためて山本氏と記念館との深いかかわりを振り返っています。

令和三年度は、企画展「柁二の歌一首(仮)」展や第二十七回宮柁二記念館全国短歌大会をコロナ禍での新しい開催方法を探りながら進めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

「〇、五三三」首の応募がありました。

【一般の部】

最優秀賞

選者賞(藤島秀憲選)

選者賞(木畑紀子選)

魚沼市長賞

新潟日報社賞

海の日も山の日もなき私に楔打ち込む畑の日がある

転校のたび「しあわせの幸です」と言うから私たぶんしあわせ

こころ病む友が声上り泣きはじむ泣きなさい笑ひなさいと「花」を歌へば

大皿の黄、赤、緑をイメージし夏野菜の苗選ぶ店先

書くことで生まれる力 短冊も絵馬もぐいっと風を引き寄せ

新潟県長岡市 勝人

千葉県千葉市 芍薬

新潟県小千谷市 星野としえ

新潟県魚沼市 小島 克朗

岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

【ジュニア部門(小学生の部)】

最優秀賞

選者賞(藤島秀憲選)

選者賞(木畑紀子選)

魚沼市長賞

新潟日報社賞

かわいくてしかたないんだきみのこと10才はなれたたほくの天使よ

夕立ちが来そうな空だ自転車兄を案じて窓を見つめる

校舎からえち後三山見えているあの山のようにどうどうとしたい

イヨボヤの生きる力の水しぶき三面川へ前へ前へと

青い空雲といっしょにおさんぽに行つたら風とごうりゅうしたぞ

小千谷市立小千谷小 富井琉輝

魚沼市立湯之谷小 青木 花

魚沼市立堀之内小 鈴木 悠太

見附市立今町小 小川 苺華

魚沼市立湯之谷小 高野 由奈

【ジュニア部門(中学生の部)】

選者賞(藤島秀憲選)

選者賞(木畑紀子選)

魚沼市長賞

新潟日報社賞

口ずさむ歌の名前は忘れたが涼風のように私をつつむ

世の中は自粛に分散延期だが密に実れよ今年の稲穂

じやり道をただひたすらにかけのぼるすずしい風は夕日に変わる

成功をした時だけを考えて不安の中で円陣を組む

魚沼市立湯之谷中 内田 花

中央大学附属横浜中 増田 愛己

魚沼市立堀之内中 横山 結南

新潟市立亀田中 横井 小夏

【ジュニア部門(高校生の部)】

最優秀賞

選者賞(藤島秀憲選)

選者賞(木畑紀子選)

魚沼市長賞

新潟日報社賞

レギュラーを外れた僕に温かい母のシチューが湯気たてている

親友に彼女ができた八月のカレンダーには予定が入らず

靴下のかかとに穴がある友と親指にある私は親友

私には「痛い痛いの飛んでけ」がもう効かないと母は知らない

群れて発つ仲間見送る一本の綿毛よ次は君だけの風

東京学館新潟高 櫻田 大希

新潟県立村上桜ヶ丘高 長谷川磨生

東京学館新潟高 和田 桃香

茨城県立下館第一高 金子 笑

慶應義塾湘南藤沢高 石川 胡桃

第26回 短歌大会 応募状況

| 区分 | 応募作品数 | 応募者数 |
|--------|---------|--------|
| 一般の部 | 871首 | 375人 |
| ジュニアの部 | 9,662首 | 4,914人 |
| 小学生 | 2,476首 | 1,243人 |
| 中学生 | 4,421首 | 2,255人 |
| 高校生 | 2,765首 | 1,416人 |
| 総数 | 10,533首 | 5,289人 |

選者は、川野里子先生(かりん)と宮里信輝先生(こすもす短歌会)にお願いしました。大勢の皆様のおかげをお待ちしています。

第二十六回宮柁二記念館全国短歌大会は、選者に藤島秀憲先生(心の花)、木畑紀子先生(コスモス短歌会)をお迎えして実施いたしました。コロナ禍にあつて応募数の減少が危惧されましたが、小学生の部・中学生の部では、前年度を上回る応募をいただきました。総数としては、前年度より八百首ほど減少しましたが、今年度も一万首を超えました。ありがとうございました。とりわけ、長期の休校のために授業時数の確保に苦労される中で、多くの学校が今年も短歌大会に取り組んでくださったことに心から感謝申し上げます。

一方で、十一月十四日に開催を予定していた表彰式は中止とせざるを得ませんでした。選者の先生方から直接指導・講評いただく機会を失ってしまったことは、本当に残念でなりません。

さて、令和三年度・第二十七回宮柁二記念館全国短歌大会は、五月一日から応募の受付を開始し、締め切りを一般の部は七月三十一日、ジュニアの部は九月六日とします。

【選者のことば】

藤島 秀憲

短歌を作り始めて二十一年目になります。何を詠もうか、どのように歌おうかと葛藤する日々です。ちよつと面白い、気の利いた表現を求めて技巧に走ってしまい、「本当にこれで良いのか」と自問自答しています。とりあえずたくさんの歌を作ろうとして来ました。一日一首には及びませんが、近い数は作りました。一年に三〇〇首とすれば二十一年で六三〇〇首になります。すごい数だと満足してしましたら、とんでもない。もつともつと作った人がいるのです。

一日に五首づつ詠むと決めてきて老人なればもう駄目だ 宮柁二「忘瓦亭の歌」

「老人なれば」と言っている宮柁二はまだ六十代の前半です。しかし二十歳の頃から一日五首詠んできたことには、八万首近い歌を詠んできたことになりま。わたしとは桁違いです。作り続けて来たパワーに驚きます。短歌はしばしばマラソンに喩えられます。宮柁二もマラソンランナーでしたが、短距離ランナーのスピードで走り続けました。

近年の活躍ぶりを喜んでくれることでしょう。屹立とした揺るぎのない韻律を持つちよつとも「軽み」があります。そして何よりも、生きていることの喜怒哀楽が描かれています。軽くてもちよつと面白くて気の利いただけの表現ではないのです。作り続けることの大切さを宮柁二は教えてくれます。

妻よ汝は近鉄ファンこのわれは 広島ファン 広島よ勝て 宮柁二「純黄」

今回の応募作品に現われた人生の喜怒哀楽を、受け止めながら、味わいながら、選考させていただきました。

藤島 秀憲(ふじしま ひでのり)

昭和35年、埼玉県上尾市生まれ。法政大学経営学部卒業。39歳のときに短歌に出合い、新聞投稿を一年半経験したのちに、竹柏会「心の花」に入会。佐々木幸綱に師事することとなる。平成19年「日本語の変容と短歌 オノマトベからの一考察」により現代短歌評論賞。平成22年、第一歌集「二丁目通信」により現代歌人協会賞、ながらみ書房出版賞。平成26年、第二歌集「すずめ」により芸術選奨文部科学大臣新人賞、寺山修司短歌賞。令和2年、第三歌集「ミステリー」により前川佐美雄賞。この冬に第四歌集「短歌日記 オナカシロコ」が刊行予定。現在、「現代短歌新聞」にエッセイ「短歌の小道具 100選」を連載中。「心の花」編集委員、現代歌人協会会員、NHK学園短歌講座専任講師。東京都在住。



【選者のことば】

たくさんの心の出会いに感謝

木畑 紀子

今年新型コロナウイルスの蔓延で、世界中が苦境に直面しています。誰も経験したことのない災禍の中で、短歌を作る意味について考えながら、応募作品を読ませていただきました。そして今、一般の部、ジュニアの部の一万首を超える作品を読み終え、こんなに大勢の方々と「心の出会い」ができたことに胸を熱くしています。短歌という短い詩に思いを込めることで、人と人は心の距離をぐんと縮めることができるのです。

苦しみて歌つくるわれ楽しんで 歌つくるわれいづれぞわれは 宮柁二「緑金の森」

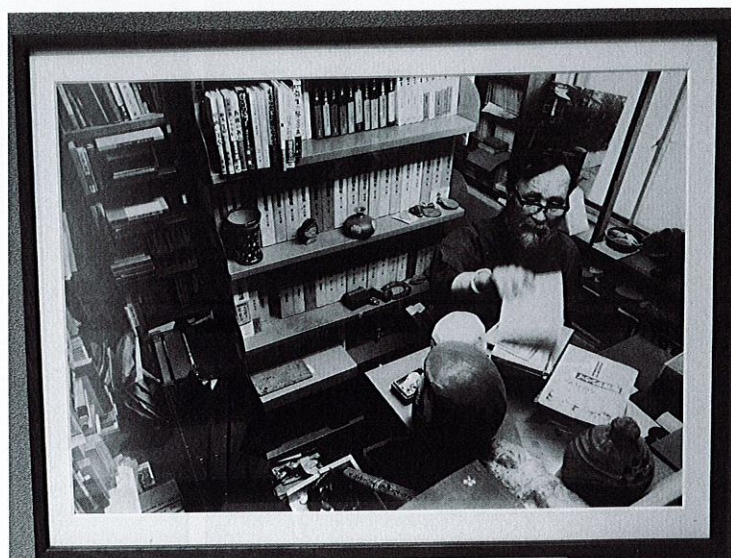
宮柁二先生六七歳の歌です。半世紀に及び多くの名歌秀歌を詠んでこられた先生の感慨の前に肅然とします。戦争で多くの戦友を失い、深く傷つきながらも、戦後短歌に灯りをともして下さった宮先生から学ぶことはたくさんあります。作歌という行為に対して常に自問し続け、苦しみと楽しみの間を往還されていたのだと思うとき、とても力づけられます。病はいつの世も人々の命を脅かしますが、今回の応募作品には自他の命(動植物を含めて)を大切に思う歌、平凡な日常の尊さを思う歌が多くありました。ジュニアの部では、生活が一変してしまつた怒り、悔しさをまっすぐ訴えつつ、そこに小さな喜び、幸せを見つめる歌、更

にユーモアの歌もあり、たいへん励まされました。歌を作っても状況は変わりません。でも、歌を作ることで自分の心が少し変化するのを誰もが経験するでしょう。それが歌の力だと私は思います。選んだ歌はごく一部にすぎませんが、応募して下さったすべての方々から感動をいただきました。本当に有り難うございました。また困難の中準備をして下さった記念館の皆様、お力添えをくださった関係者の皆様、心よりお礼を申し上げます。

木畑 紀子(きばた のりこ)

1948年、和歌山市生まれ。現在京都府在住。1967年、コスモス短歌会入会。1998年、コスモス賞受賞。1999年、評論賞受賞。2000年よりコスモス選者。第10回宮柁二記念館短歌大会選者。歌集に「水鏡」「歌あかり」「冬暁」「かななしくれ」他。歌書に「雨宮雅子の歌 101首鑑賞」「曙光の歌びと一「桑原正紀」を読む」「戦後の歌集を読む」がある。





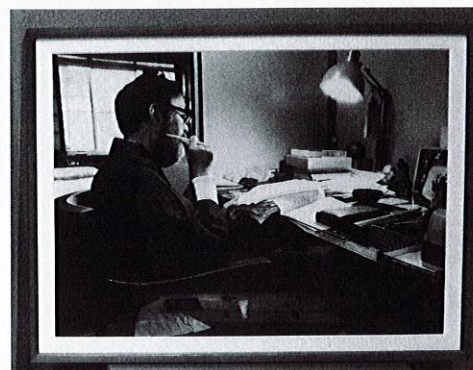
宮柁二写真 (令和元年度新資料)

『書齋にて』 文芸春秋
昭和53年11月号「日本の顔」より

宮柁二記念館収蔵資料紹介 No.54

宮柁二記念館だより第52号(2020.3.25)に掲載した宮柁二記念館収蔵資料 No.52『書齋にて』と一緒に宮柁二ご長女片柳草生さんより寄贈いただいた写真です。たくさんの本や様々な品々が並んだ書庫の様子がよくわかります。

この写真は、第二展示室に展示しています。



書齋にて

※これらの写真と同時期(令和元年度)にコスモス会員有志の皆様より、額 中林忠良 作「コスモス」表紙原画6点を寄贈いただきました。詳細は、追ってご紹介いたします。ご報告が遅くなり、申し訳ございませんでした。

「宮柁二記念館友の会」 会員募集のお知らせ

「宮柁二記念館友の会」は、宮柁二記念館の支援を目的に結成されました。会員には、記念館だよりをお届けするほか、企画展等のご案内をいたします。現在令和三年度の会員を募集しています。年会費は1,000円です。
詳細は、宮柁二記念館にお問い合わせください。

「宮柁二記念館短歌教室」 受講生募集のお知らせ

宮柁二記念館では、「宮柁二記念館短歌教室」を開催しています。
四・八・十二月を除く年間九回、原則として第二日曜日の午前に受講生が集まり、短歌を学びます。指導者は、新発田市在住で「コスモス短歌会」元選者の岡崎康行先生です。令和二年度の受講生は、三十一名でした。
受講生は、事前に自作の短歌一首を提出し、岡崎先生から添削していただきます。また、名前を伏せた受講生全員の作品の中から良いと思う短歌五首を選びます。当日は、岡崎先生の添削と受講生による投票結果を資料として、各自が詠んだ短歌を鑑賞します。添削指導のみの参加も可能です。
令和三年度の短歌教室受講生を募集しています。年会費は3,000円です。申し込みは、宮柁二記念館までお願いします。

【訂正】(お詫びして、訂正します。敬称略)
第五十三号二頁下段 立川清人↓立川清登

宮柁二記念館だより 第54号

発行 2021. 3. 25

問合せ 宮柁二記念館(〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.lg.jp ホームページ <https://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji/>